

第8回 甲田地区小学校統合準備委員会【総務部会】要点筆記

開催日時：平成27年6月11日（木）
午後6時30分～9時10分
開催場所：甲立小学校（多目的教室）

参加状況	<p>■専門部会員（敬称略）</p> <p>豊原 稔和 甲立小学校区内の振興会代表 明木 一悦 小田小学校区内の振興会代表 今村 佳岳 小田東小学校区内の振興会代表 岡田 耕治 甲立小学校保護者会の代表 田邊 介三 甲立小学校保護者会の代表 ◎足助 智恵 小田小学校保護者会の代表（部会長） 田中 真二郎 小田小学校保護者会の代表 岩田 幸雄（欠席） 小田東小学校保護者会の代表 大前 浩介 小田東小学校保護者会の代表 光實 大輔 甲立保育所保護者会の代表 若佐 久美子 小原保育所保護者会の代表 ○富永 美香 小田東保育所保護者会の代表（副部会長） 山平 弥生 甲立小学校の校長 川本 和暁 小田小学校の校長 信末 実智則 小田東小学校の校長 宮本 直彦 甲田中学校の校長</p> <p>■安芸高田市</p> <p>叶丸 一雅 安芸高田市教育委員会教育次長 前 寿成 安芸高田市教育委員会教育総務課長 柳川 知昭 安芸高田市教育委員会教育総務課学校施設係長 倉田 英治 安芸高田市教育委員会教育総務課学校施設係専門員</p>
傍聴者	1名
会議次第 及び資料	別添のとおり
協議内容	<p><input type="checkbox"/>概要</p> <p>前回の総務部会で「学級編成」と「学校施設」について、セットで協議したいとの意見が出されたため、甲立小学校のプールや教室など施設見学を行った後、「学級編成について」提案し協議に入った。</p>
	<p><input type="checkbox"/>協議事項</p> <p>(1)「学級編成」について</p> <p>■提案内容</p> <p>学級編制は、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第四条の規定及び、県の教育委員会が定めた基準により行う。</p>

○広島県教育委員会が定めた学級編成基準

同学年の児童で編成する学級 35人（1～2年生） 40人（3～6年生）

複式学級（2個学年）16人（1年生を含む場合8人）

部会員からの意見・質問・要望等

- ・5年前に学校規模適正化委員会で示された望ましい人数規模の見解は考慮されているのか。
- ・実現可能かどうかは別として、教育現場に立っておられる教員の方々が望ましいと思われる学級編成人数はどのようなのか。
- ・配慮が必要な児童がたくさんいて、40人規模の学級では先生がその子に配慮しにくい環境になるのではないのか。
- ・学級編成基準は分かるが、可能性があるのであれば、本当に望ましい人数を追求するのも一つかと思う。
- ・県が示す編成基準人数と異なった人数で学級編成をしている県内の学校はあるか。
- ・少人数指導という教育条件を整えるために20～30人学級を理想としている。加配は複式学級を単式学級にするために配置されるのであり、新たなクラスをつくるものではないことを理解しておく必要がある。
- ・統合してのメリットは子どもに関わる大人の数も増えるということにもあると思う。人は人で磨かれていくのであり、子どもに関わる人が多ければ多いほど、子どもにとってはいい影響があるのではないのか。保護者や地域の人だけでなく、学校という現場で子どもと多く接する機会がある教員も少ないよりは多い方がよいのではないのか。
- ・教育現場が非常にデリケートになってきたことで、教員の負担も増え、そのしわ寄せが子どもに向けられるのではないのか。教員を増やすことでその心配も防げるのではないのか。
- ・教育委員会で20～30人学級が望ましいと出されたのであればそこを目指してほしい。
- ・国としても少人数教育が望ましいと動いている。この場でも予算や教職員不足などの問題ではなく、甲田町の子どもたちにとっていい環境づくりをしていくための話し合いをし、要望として理想を出し合っていくことが大切なのではないか。
- ・市費学習補助員と正規教職員のコストの違いはどれくらいなのか。
- ・小中学校9年間1クラスという人間関係の固定化を避けるためにはクラス替えがあった方がよいので、20～30人が望ましいと思う。
- ・今日、教室を見て思ったが40人では狭いように思う。25人を2クラスに分けるというのはちょっと1クラスあたり人数が少ないような気がする。30人を超えた人数となると、2クラスに分けていいように思う。
- ・統合した後に国・県の編成基準が変わったとき、市教委の方針もそれと連動して変わるのか。
- ・何人を超えたら2クラスにするかについては、複数学年ができるような今の学級編成のおおまかな形でいいのではないかと思う。数字を提示したからといって複数学級になるわけではないので、数字にこだわる必要はないのではないかと思う。複数学級を構成できるような学級編成を要望として出せばいいと思う。
- ・配慮を必要とする子どもが増え昔と環境が変わってきている中、県が示す編成基準人数に対し教員1人は厳しいのではないのか。
- ・5年前に出た望ましいとされる学級人数は、今後児童数が減少すると集団での学習活動などに弊害が生まれる。このことを解消するために、色々な学習活動が充実するのではないかということ

で一つの目安として弾き出されたのが20～30人の人数であり、学級編成については法の問題である。

- ・ 県が定めた編成基準は教員との定数の関係であり、教員の給与・人数配置は県が出すので簡単には変えられない。
- ・ 特区をとった場合に、国から直接予算をとることができるのか調査していただきたい。

事務局から

- ・ 安芸高田市の取組みとして、人数の多い学校には学習補助員を配置し対応をしている。これについては、教員の確保がかなり難しい中での取組みである。
- ・ 県が示す編成基準人数と異なった人数で学級編成をしている市町は広島市と数年前に三次市が実行したことを把握している。広島市は市の採用で、三次市は教職員の確保が難しい状況が続き当初計画をしていた状況に至っていないことを聞いている。
- ・ 統合1年前には複式学級を解消するための教職員の加配がある。
- ・ 教職員数は、団塊の世代の退職が重なりいっせいに不足する時期があるということは、聞いている。
- ・ 県の教員の給与体系は市が雇う学習補助職員とは全く違う。年収ベースでもかなり差があると認識している。
- ・ 学級編成基準を国が変更すれば県も準じて変更し、市も変更することになる。

部会長から

複数学級を理想とするため、市が示す20～30人編成を甲田の総務部会として希望するという形で、事務局で今日の意見をまとめた文章を作成してもらい、次回部会で提案を受けることとする。

(2)「学校施設」について

部会員からの意見・質問・要望等

- ・ 増築で新たな教室を確保するのがよいのではないかと。複数学級になった場合のプレハブ対応は避けたい。
- ・ この施設が建てられた時と今では教室の広さを決める基準に違いがあるのか。
- ・ 甲立小のプールは学校から遠く古いということを改めて感じた。
- ・ 統合にあたっては人数が増えるので、学校の近くに広いプールを新設してほしい。
- ・ 広さについては今のプールで対応できると感じるが、老朽化の面では厳しいのではないかと。
- ・ 統合後の小田、小田東のプールの管理はどうなるのか。
- ・ プールを改修した場合のコストと新設した場合のコストを比較するべき。子どもの安全など考えたときに学校から近くにプール新設は理想であるが、土地の買収やコストの面で地域の方が納得のいく説明をしなければならないのではないかと。事務局からコストについて提示してほしい。
- ・ 新たに駐車場や、スクールバスの転回場所なども必要。
- ・ 駐車場は常時必要ではなく、必要ときに一時的に使えるという柔軟な考え方でもよいと思う。
- ・ 児童クラブの駐車場として常時使えることも必要。
- ・ 基幹集会所の間の溝は危険なので、早急に対応してほしい。
- ・ 体育館は浸水する恐れがあり、避難場所に指定されていないと聞いたが、そのような場所に学校があるのは教育委員会としては問題ないとお考えか。

事務局から

- ・プールについては統合校以外の学校も当分の間は存続させることもできる。
- ・統合後の学校プール以外の管理は、社会体育施設として管理をする。
- ・最初の学校位置の提案があったときに、それぞれの位置を比較表で整理していて、災害関係についても比較しており、甲立小は浸水区域で小田小・小田東小は土石流の危険区域となっている。

部会長から

意見はまだあると思うので、それぞれの組織に持ち帰っていただき、次回、引き続き協議したい。今日出された要望も事務局で整理してもらいたい。

(3) 施設の視察について

部会員からの意見・質問・要望等

- ・視察について、会報にも掲載がないし今日の議題にもなっていないのはなぜか。次回から協議事項として議題にしていただきたい。

■先進地視察候補先

竹原市立忠海学園

- ・小学校2校合併の計画だったが、行政が方針を変え小中一貫校に至っている。
- ・校舎は海沿いに面し高潮の問題があるため、高台に校舎を新設中で今年度中に引越し予定。

呉市立警固屋学園

- ・併設の小中一環校。
- ・呉市は早い時期から小中一貫校を推進している。

府中市の小中一貫校

- ・府中市では市が小中一貫校を推進している
- ・上下町はもともと5校あったものを北・南の2つの小学校に整理し、中学校も1校になって、3つの学校が小中一環で運営されている。

東広島市立三ツ城小学校・広島市立春日野小学校

- ・施設的に進んでいる新しい施設。

部会長から

事務局で視察先の情報収集をしていただき、次回、引き続き協議したい。

□事務連絡

今回は、7月3日（金）の19時から、甲田支所で総務部会を開催する。

第 8 回甲田地区小学校統合準備委員会【総務部会】次第

日時 平成 27 年 6 月 11 日（木） 18 時 30 分～
場所 甲立小学校

1. 開 会

2. 協議事項

(1) 学級編成について

(2) 学校施設について

(3) その他

3. 事務連絡

・ 次回開催予定 平成 年 月 日 ()

4. 閉 会

協議項目 第 8 号

学級編制について

平成27年6月11日 提出

協議項目	学級編制について
提案内容	<p>学級編制は、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第四条の規定及び、県の教育委員会が定めた基準により行う。</p> <p>○広島県教育委員会が定めた学級編制基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同学年の児童で編制する学級 35人(1～2年生) 40人(3～6年生) ・複式学級(2個学年) 16人(1年生を含む場合8人)
協議結果	
確認日	平成 年 月 日 第 回 専門部会で確認